

ジュニア・サッカー・サマー・フェスティバル

7年目を迎えたジュニア・サマー・フェスティバルは8月27、28、29の3日間、神戸中央球技場を中心に小学4年生から中学3年生まで、西日本各地の32チームが参加して熱戦をくり広げ、清水FC（清水選抜）が全部門優勝を果たしその幕を閉じた。

この大会は社団法人神戸フットボールクラブが主催し、同クラブの少年チームのレベルを高める相手として適したチーム、しかも日ごろ社会体育として少年チーム育成に情熱を注いでいる指導者の率いる強豪を、神戸に招くことを建て前としている。しかし、参加チームをみると、東の静岡から西の熊本まで各地の選抜チームが顔を揃え、全日本少年大会や全国中学大会に匹敵するほど充実した交歓大会として高く評価されている。この大会は試合の勝敗よりも内容に重点がおかれていること、また第1回大会より試合は年齢別（学年別）に分かれているため、学校体育の大会では試合出場機会が少ない下級生にも活躍の場が与えられ、小学校の低学年から中学3年生までの間、年齢に応じて選手を育成する上で、非常に大きな役割を果たしている。

清水FCが全部門優勝

西日本の少年が熱戦を展開

大会期間中は交歓試合のほか、少年サッカーの健全な発展を願って「現状において将来の日本を背負って立つ少年選手を育成するにはどうすればよいか」というテーマで、全指導者が選手村の国民宿舎・須磨荘に集まり、



技術的に見ごたえのあるプレーが多かった

2部の前期終える

神戸市少年リーグ

神戸市少年リーグの2部（小学3、4年生男子）の前期が9月27日終わった。1組では神戸FCが全勝の成績をあげ、2位以下を大きく引きなした。2組では東灘Cが5勝1分だけでトップ。2位の箕谷Bはことし初参加のチームだが、全員が一生けんめいがんばりすばらしいサッカーをみせてくれた。

2部1組									
順位	チーム	神戸FC	東灘C	名倉B	YMCA	千歳C	ひより台B	勝点	
1	神戸FC・C		2-1	3-0	8-0	9-0	13-0	10	
2	東灘C	1-2		2-0	0-5	3-0	5-1	6	
3	名倉B	0-3	0-2		4-2	1-0	2-0	6	
4	神戸YMCA	0-8	5-0	2-4		1-2	1-0	4	
5	千歳C	0-9	0-3	0-1	2-1		2-2	3	
6	ひより台B	0-13	1-5	0-2	0-1	2-2		1	

研修会と座談会がもたれた。座談会では大谷四郎氏（神戸FC技術委員長）、堀田哲爾氏（日本協会技術委員）、近江達氏（枚方FC理事長）が中心となって進められ、選手の育成方法について活発な意見が交わされた。

II部（中学2年）では西日本選抜チームの参加を受け入れた。このチームは西日本OB連盟（玉井操会長）の少年サッカー育成事業として、同連盟に加盟しているチームまたはそのメンバーが育てている優秀な少年を選抜したもので、将来を期待されている選手が各地から多数集まった。

日本サッカー協会は今年度から小学6年と中学1年生年齢の優秀選手を選考し、直接指導するようになったが、このフェスティバルもその選手選考の大会として認められ、小学6年の溝畑哲朗君、中学1年では和田昌弘君と井上教文君が選ばれ、将来の日本代表をめざし第一歩を踏み出した。（カ）

（成績）
試合形式はリーグ戦。ただし、IV部のみは3チームずつ4ブロックに分かれて予選リーグを戦ったあと順位決定戦を行った。

▶I部（中学3年、参加4チーム）①清水FC 2勝1分、②静岡城内FC 2勝1分、③枚方FC 1勝2敗、④神戸FC 3敗
▶II部（中学2年、参加4チーム）①清水FC 2勝1分、②西日本選抜 2勝1敗、③藤枝中 1勝2敗、④神戸FC 3敗

2部2組									
順位	チーム	東灘C	箕谷B	成徳C	御影C	龍越C	神戸FC	神陵台C	勝点
1	東灘C		1-1	1-0	8-0	1-0	3-0	8-0	11
2	箕谷B	1-1		2-2	5-1	4-0	6-0	4-1	10
3	成徳C	0-1	2-2		6-0	4-0	1-0	10-0	9
4	御影C	0-8	1-5	0-6		4-1	2-2	7-0	5
5	龍越C	0-1	1-4	0-4	1-4		3-1	4-0	4
6	神戸FC・D	0-3	0-6	0-1	2-2	1-3		4-0	3
7	神陵台C	0-8	1-4	0-10	0-7	0-4	0-4		2

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12
加藤 正信 ☎078 (861) 3100
なお、数人分をまとめて申し込まれる場合は、郵送料の割引がありますのでご連絡ください。



▶III部（中学1年、参加4チーム）①清水FC 2勝1分、②熊本選抜 1勝2分、③神戸FC 1勝2敗、④広島大河FC 1分2敗
▶IV部（小学6年、参加12チーム）①清水FC ②浜松FC ③広島選抜・神戸FC
▶V部（小学5年、参加4チーム）①清水FC 3勝、②四日市 1勝1分1敗、③神戸FC 1勝1分1敗、④枚方FC 3敗
▶VI部（小学4年、参加4チーム）①清水FC 3勝、②藤枝ヤングFC 2勝1敗、③神戸FC 1勝2敗、④交野FC 3敗

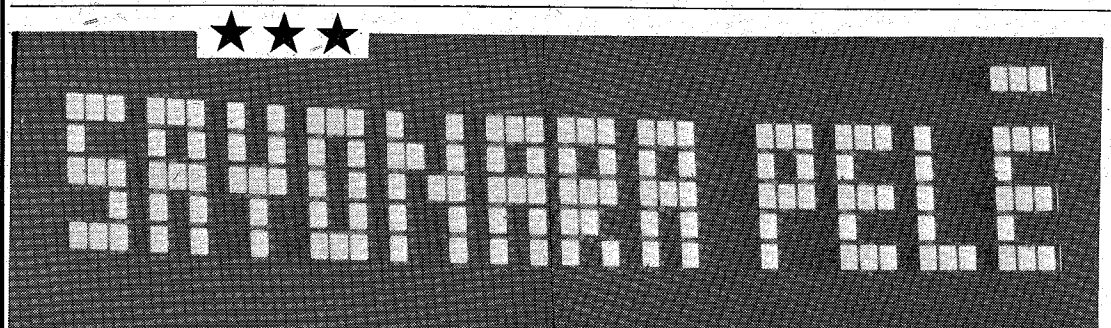
なお、兵庫協会の推薦でIV部に参加した西淡選抜はブロックの予選リーグで3位となり、9-12位決定戦の結果、10位にとどまった。



神戸中央球技場だより

10月15日（土）	神戸市総体・社会人の部決勝	14：30
10月23日（日）	関西学生リーグ最終日	12：00
11月6日（日）	天皇杯全日本選手権関西大会	12：00
11月13日（日）	天皇杯全日本選手権関西大会	12：00
11月20日（日）	天皇杯全日本選手権関西大会	12：00

サッカーってのはイイ。ボールの丸いのがたまらなくイイ。金のかからないところがまたイイ。外周約70センチの白黒ボールをじっと見つめていると、夢の世界へ引きずりこまれるような魅力がサッカーにはある。男は黙ってサッカーボール、そんなことはどうでもイイ。♣王様ペレはわれわれのぞんだものを与えてくれた。確かに「黒い真珠」の妙技に沸くシーンは多くなかったが、ペレがつくり出すサッカーにファンは酔った。ファンの応援もすばらしかった。「ペレ信者」たちのあの「狂ったような興奮」は外国にも負けないふん囲気をもっていた。日本でもあんな応援ができるのだ。♣世界のカマモトの引退も惜しまれる。偉大な釜本に続く選手があらわれ、国内の試合である時のシーンを再現できるのは夢の話だろうか。♣ジュニアサマーフェスティバルはクラブが主催する大会ではあるが、少年の大会としては全国から広く認められている。神戸や兵庫の少年チームの指導者にもっともっと見学してもらいたかったのだが……。（ウエノ）



王様のほほに涙

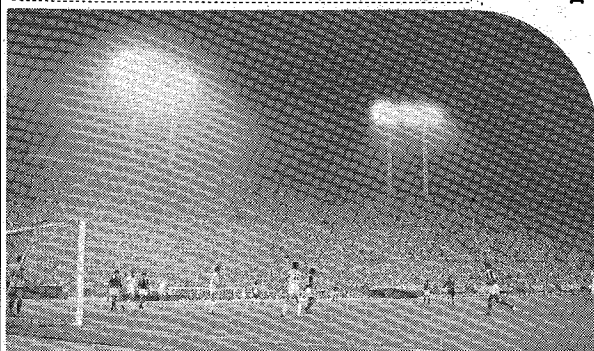
感動のフィナーレ、酔う7万観衆

釜本も“日の丸”脱ぐ

試合終了の笛がなると、場内は一転して幻想的なシーンに包まれた。淡いブルーのスポットライトが二人の「サヨナラ選手」を浮かびあがらせる。ペレが青い「9」のユニホームを着て、釜本もペレから贈られた白い「10」を身につけている。ウイニングランが始まった。ペレと釜本が日本選手の肩車にのって正面スタンドに帰ってくると、ついに「ペーレ、ペーレ」の大合唱が爆発した。ファンファーレの演奏がかき消されながら、わきに釜本を従えてペレのお別れのあいさつに移る。二度、三度……投げキスをするペレ。ほほに流れるものがきらりと光る。そして真白い壇上に立つペレは、はいていたシューズを脱ぎ彼の心を表すかのように、ていねいに本当にていねいにひもを結び、釜本の肩をたたきながら手渡した。7万観衆だれ一人として席から離れようとしないうちにスタンドに向かって、日本語で「ミナサン・ドウモ・アリガトウ・ゴザイマセ」

ペレ
1940年10月ブラジル生まれ。15歳でサントスに入り、16歳でブラジル代表に選ばれ、計4回のW杯に出場。1970年メキシコ大会ではブラジル3度目の優勝の中心となった。69年には世界最高の1000ゴールを達成し、74年に引退したが、75年6月に27億円の契約金でコスモスへ入った。「黒い真珠」のニックネームをもち、史上最高のスポーツマンといわれている。

釜本邦茂
1944年4月京都生まれ。京都山城高から早大へ進み、20歳で東京オリンピックに出場。68年のメキシコ大会では得点王に輝き、銅メダル獲得の原動力となった。日本リーグ得点王6回、年間最優秀選手4回など国内の記録をほとんど保持している。ヤンマーディーゼル所属。神戸市在住。



7万観衆の“ペレコール”がこだまする国立競技場（9月14日）

シタ」。電光掲示板にくっきりと「SAYONARA PELE」が描き出される中を、王様と日本の星がさわやかに去っていった。ありがとうペレ、そして釜本。

サヨナラ ゲーム イン ジャパン

9月14日、国立競技場はすっぽりと7万人の群衆で埋まった。まるで外国のスタジアムにでもいるような異様なふん囲気の中でキックオフ。ペレは激しく燃えた。10日の古河戦とは見違えるばかりにすばやい。ペレが動く。そのイメージネーションに富んだ動きを目で追うと、それだけで見ている者の胸が期待感でふくれあがってくる。期待していなかったことをペレがやってくれる“奇跡”にファンは酔いしれるのだ。「スポーツマンである前にりっぱな人間であれ」「常に最高の体調を維持せよ」「技術をみがけ」。王様が少年選手にアドバイスするとき、いつも口にする三つの持論だ。それを最後の勇姿に見きた日本のファンの前に実践してくれた。

日本の巨星惜しむ大声援

日本代表対コスモス戦は、釜本にとっても13年間の日本代表に別れをつける試合でもあった。万感の思いを胸にグラウンドに立った釜本は、ホイッスルと同時にコスモスゴールへと迫る。ゴールへの執念は少しも衰えていなかった。「サッカーをやっている時の自分はプロフェッショナルだ」と言いける釜本。この日はエースストライカーとしてトップに立ち、有終の美を飾った。惜しくも“最後のゴール”はならなかったが、ペレと並んでスポットライトをあびる釜本の表情には、戦い抜いた男の

1977 10月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市北区有野台7丁目16-6
〒651-13 ☎ (078) 981-5867
発行人および編集人 加藤正信
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎ (078) 861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部20円

日米交歓サッカー

- ▶第1戦（9月10日、国立競技場）
古河電工 2-4 コスモス
- ▶第2戦（9月14日、国立競技場）
日本代表 1-3 コスモス



笑顔でこたえるペレ。だが、ほほには涙がうつすらと……。そばに立つ釜本も感慨無量

すがすがしさが漂っていた。サッカーにかけたひたむきな姿勢は、ファンの心にいつまでも刻みこまれることだろう。

鷹匠が準優勝

近畿中学校総合体育大会

第26回近畿中学校総合体育大会は8月24、25日、大阪うつばサッカー場と岩崎レクリエーションセンターで行われた。近畿各府県から参加した12チームが、4つのグループに分かれて予選リーグを争い、グループ1位の4チームによる決勝トーナメントの結果、大阪代表の高槻九中が兵庫代表の鷹匠中を下して優勝。なお、同じく兵庫代表の御原中はCグループで2位となり、決勝トーナメント進出はならなかった。

鷹匠中（兵庫）	4			
阿武野中（大阪）	2	2		
下鴨中（京都）	0		3	
高槻九中（大阪）	2			

優勝 高槻九中

